

第1学年 3組 美術科 学習指導案

令和4年6月16日 木曜日 3校時

指導者 []

指導教官 []

1. 単元 暮らしに息づく土の造形

2. 趣旨

○本単元は、日本の伝統工芸の一つである陶芸についての製法や道具についての基礎知識を獲得できる。実際に作品を手に取りじっくり観察することで、その作品がどのような技法でできているかを考察できる力を育てられる。

○中学1年生は陶芸という言葉を知らない生徒が多い。小学校の図工の時間に紙粘土や油粘土で作品を作った経験があることから、粘土を使った作品作りに関しては想像ができると考えられる。鑑賞についても他人の作品を見て意見発表を行っている。

○実際に作品を手にとり鑑賞させることで陶芸を身近に感じさせたい。個人での鑑賞だけでなく、級友と意見交流をさせ、より深く作品を理解しようとする力を養いたい。

3. 単元目標

<知識・技能>

陶磁器についての製法やその意味について理解できている。学習した基礎知識を活用し作品を鑑賞することができる。

<思考・判断・表現>

生活の中で使われる陶磁器を考え、学習した内容を振り返り、技法や意図について考察し表現できる。作品を鑑賞した際に感じたことを言葉で表現し、伝えることができる。

<主体的に学習に取り組む態度>

鑑賞する時間には、しっかりと作品と向き合い、触れ合い、情報を得ようとする。意見交流の際には、他の生徒の意見をきちんと聞こうとする姿勢をみせる。

4. 指導計画 (全2時間)

第1次 陶芸の基礎知識をつける。 1時間

第2次 陶芸作品の鑑賞をする。 1時間 (本時)

5. 本時の目標

前回の内容を振り返り、本時では前回学習した知識を活用し、実際の作品に触れ鑑賞する。そして、その作品がどのような技法でつくられているかを考察し、意見交流をする。

6. 準備物 教科書・ワークシート・作品6点・iPad・色鉛筆

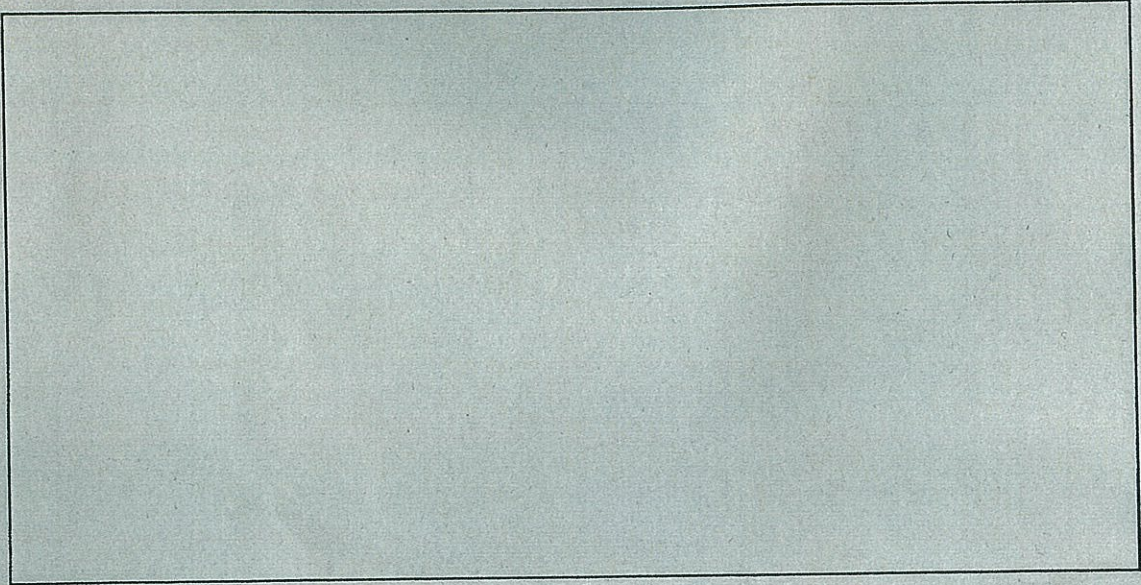
・本時の指導過程

	学習内容・学習活動	指導上の留意点	準備物
導入 (5分)	1. 前回の振り返りをする。	・ 前回の内容を忘れていた生徒が多いと考えられるため、鑑賞をする前に振り返りの時間を設ける。 ・ 振り返りは、前回のワークシートを確認させながら資料集と道具を書画カメラに映し確認していく。	授業のはじめにワークシートを配布する。 書画カメラ 資料集 教科書
展開 (38分)	2. 本時のめあてを確認する。		
	実際に陶器を手に取り鑑賞しよう。		
	3. 作品を鑑賞する。 ・ ワークシートに鑑賞する陶器の絵または特徴を書き、作品について分かったことの欄に気が付いたことについて記入する。	・ 作品は6点あるが、5種類のみ。 ・ 鑑賞させ絵や文章を書く時間を20分、まとめる時間を5分、意見交流は代表の班を2班程度指名しその場でまとめたことを発表させる。 ・ 鑑賞するポイントを黒板に書き、何を見れば良いかを明示する。	作品 ホワイトボード 書画カメラ ワークシート
4. 鑑賞した作品について意見交流会を行う。 ・ 作品について分かったことや感じたことを、それぞれの班の代表者が意見をホワイトボードにまとめる。	・ どのような技法で作られているか。 ・ 釉薬はどのように塗られているか。 ・ 厚さや大きさ。 ・ 釉薬の状態 ・ 触り心地		
5. ワークシートの感想の欄に感想を書く。	・ 感想を書く時間は5分程度とする。		
まとめ (8分)	7. 片付けをする。	・ 作品とワークシートを回収する。 ・ 生徒全員が動くため、作品を先に回収し元の席に戻した後ワークシートを後ろから集めさせる。	
	8. まとめ・振り返り	・ 学習したことをワークシートを使い振り返る。陶器が身近にあり、改めて陶器とはどういったものかを説明し締めくくる。	

美術 鑑賞シート

1年 組 番 氏名 _____

・鑑賞する作品の絵



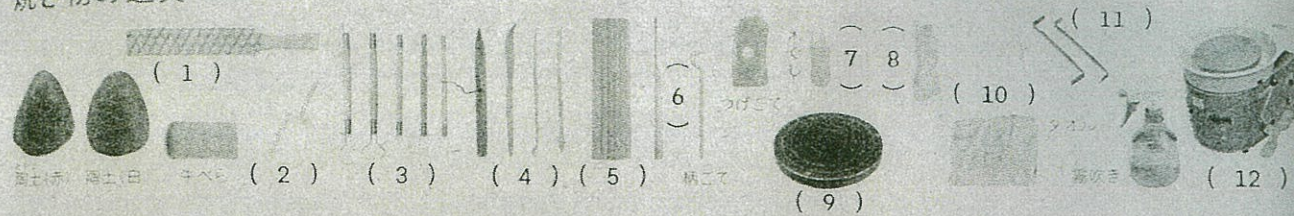
・作品に付いて分かったこと

・感想

美術 資料プリント

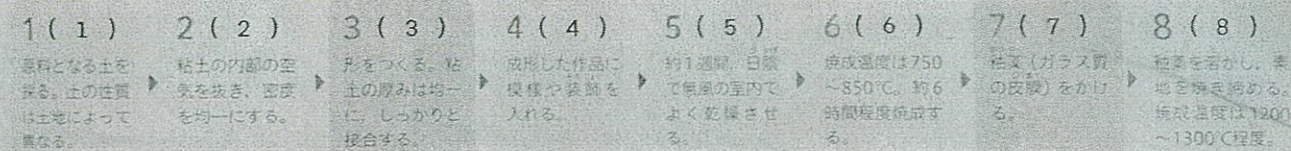
名前

焼き物の道具



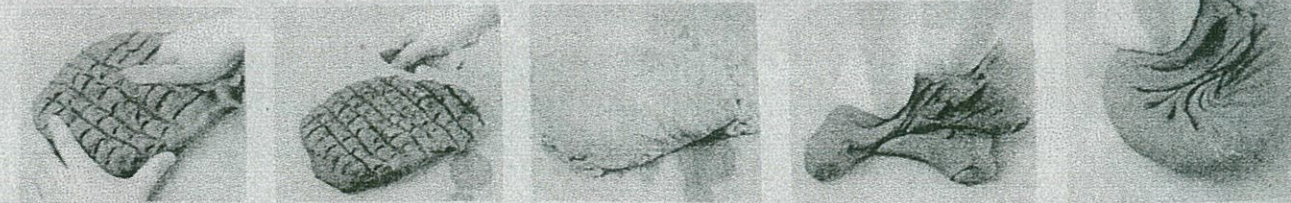
- 1(たたき版) 2(切り糸) 3(かきベラ) 4(つげベラ) 5(たたり版)
 6(のし棒) 7(切り針) 8(なめし皮) 9(さくろ) 10(切り弓)
 11(成形用かんむ) 12(電動ろく)

焼き物の工程



- 1(採土) 2(土練り) 3(成形) 4(加飾) 5(乾燥)
 6(素焼き) 7(施釉) 8(焼成)

陶土の練り方



①柔らかくなった粘土にへって、中心をつき、水分をさかやうに均一にする
 ②木をさませたメソリンなどで粘土に水をかける
 ③柔らかくなった粘土を丸く成形し、中心をつき、水分をさかやうに均一にする
 ④あら練り
 ⑤菊練り

あら練りと菊練りとは?

あら練り: 土の柔らかさも均一に整えるための作業。
 固い部分と柔らかい部分があると、形をつくりにくい。
 菊練り: 土の中に入っている空気を抜き、粒子を整える作業。
 土の中に空気が入っていると、焼く際に爆発する。

手びねり

粘土を「たま」や「ひも」の形にして、手でねって形をつくらせていく。

板づくり

「たたり版」と「のし棒」を使い、板にした粘土を接着して形をつくる。

型取り

「石の型」をつくり、その型に板状の粘土をたたきつけ形をつくる。

ろくろ

「円形の作品」をつくることに適している。土の量を決めると、一定の大きさにつくることができる。

素焼きと本焼きの違い

違いは温度にある。素焼きは(600) 750~800℃、本焼きは(1200) 1250~1300℃
 素焼き: 乾燥しきりかたの水気を抜く。不純物(ゴミ)を燃やす。焼き締まる。
 本焼き: 施釉した釉薬を溶かし、作品のまわりを均一に被うことで強度を増す。

釉薬かけ(施釉)

釉薬はガラス質の素材で、焼きものの表面に焼きつけて、強度を高め、水に強くするために用います。透明釉、色釉、乳白釉、つや消し釉などの種類があります。

